



第53回電波利用懇話会のご案内
「950MHz帯電子タグシステムの普及促進に向けて」

電子タグシステムは、今後のユビキタスネットワーク社会における基盤的ツールとして、幅広い分野での利活用が期待されています。

950MHz帯を使用する電子タグシステムは、これまで使われてきた周波数帯（135kHz以下、13.56MHz帯、2.45GHz帯）の電子タグシステムに比べて長い通信距離を実現可能であり、高出力型950MHz帯パッシブタグシステムについては、昨年12月の情報通信審議会（会長：庄山悦彦 株式会社日立製作所 代表執行役 執行役社長）の一部答申を受けて、本年4月に制度化されました。

さらに、(1)高出力型パッシブタグシステムの高度化及び(2)低出力型パッシブタグシステム（免許不要タイプを想定）の導入に向け、総務省は、平成17年10月12日、情報通信審議会から、「高出力型950MHz帯パッシブタグシステムの高度化に必要な技術的条件及び低出力型950MHz帯パッシブタグシステムの技術的条件」について一部答申を受けました。

当会では、今後の電波利用の発展に大きく係わる本件について、総務省から講師をお招きして説明していただくこととし、下記により第53回電波利用懇話会を開催することといたしました。

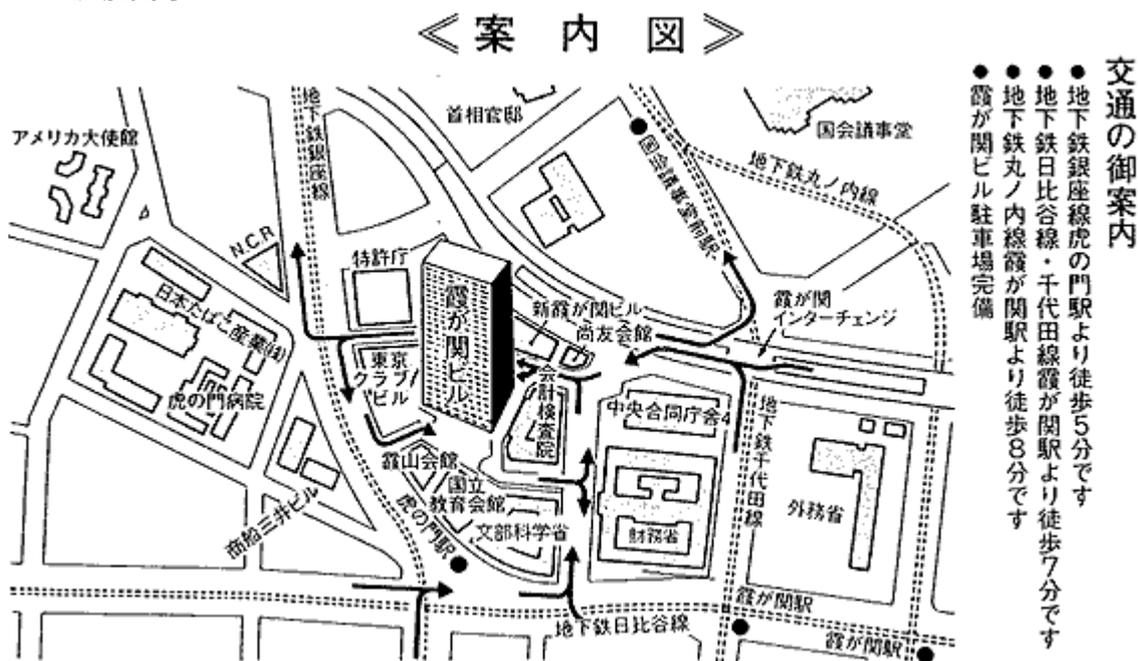
会員の皆様には、ぜひご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時： 平成17年11月4日（金）午後2時から4時まで
- 2 場所： 東海大学校友会館 望星の間（霞が関ビル33階）
東京都千代田区霞が関3-2-5
TEL:03-3581-0121
- 3 題名： 「950MHz帯電子タグシステムの普及促進に向けて」
- 4 講師： 総務省 総合通信基盤局 電波部 移動通信課
課長補佐 中村 裕治 様
- 5 参加者： 120名程度（定員になり次第締め切らせていただきます。）
- 6 申込先： 当会ホームページのセミナー講演会等の申込受付まで。

7 参加費：無料

8 会場案内：



霞が関ビル33階 東海大学校友会館 望星の間

問い合わせ先
企画国際部 斉藤
TEL:03-5510-8592
FAX:03-3592-1103

第59回規格会議が開催される（続報）

前号に引き続き、第59回規格会議（平成17年9月29日）において改定が承認された標準規格等のうち、前号に記載した1～7項を除く下記8～13項の概要を記載します。

8 デジタル放送用受信装置標準規格（望ましい仕様）（ARIB STD-B21 4.4版）

家庭内等の限られた範囲内でデジタルコンテンツを共有するため、別々の部屋で受信機、録画機、ディスプレイ等を家庭内LANに接続して使用することが今後想定される。このため、既存の相互接続仕様を組み合わせさせたDLNAガイドライン1.0に準拠し、追加仕様をまとめることにより、デジタル放送受信機のIPインタフェース仕様を規定した。

また、すでにARIB技術資料に記載され一部製品化されているデジタル信号出力のDVIとHDMIについて、記述を追加した。

9 デジタル放送におけるデータ放送符号化方式と伝送方式標準規格（ARIB STD-B24 4.3版）

地上デジタルテレビジョン放送や地上デジタル音声放送で今後運用が想定される携帯受信端末に対するサービスに対応するため、第二編 XMLベースのマルチメディア符号化方式（第二分冊）の改定を行った。

本編：(1)Basic Mobile BMLモジュールの正式な定義、(2)スタイルシートのインタフェースの正式定義、(3)一部の拡張関数の不備修正、など

付属：(1)ルート証明書の運用ガイドライン修正、(2)携帯受信運用ガイドラインの内容見直しと明確化、など

1 0 補助データパケット形式で伝送されるデジタル字幕データの構造と運用標準規格（ARIB STD-B37 2.3版）

デジタル字幕、アナログ字幕から携帯字幕に変換するにあたり、表示形式の違いから変換結果について装置間の差が出ることが懸念されるため、

- (1)携帯字幕へのレイアウトの変換、
- (2)振り仮名（ルビ）、囲み、アンダーラインの変換、
- (3)中型/小型DRCSを標準サイズのDRCSに変換する場合のガイドライン、及び

- (4)表示範囲を超えた場合の取り扱い

について、ガイドラインを定め、付属デジタル字幕運用規定にB9項として追加した。

また、2.3.2項及び表B6-5について、内容の明確化を行った。

1 1 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料（ARIB TR-B14 2.5版）

大きな改定としては、第九編 送信運用規定を新設し、送信局設置検討において想定する受信システムについて記載した。

それ以外の主な改定としては、固定受信の受信機について、高速デジタルインタフェースとしてDTCP-IPの追加、リムーバブル記録媒体へのコンテンツ保護方式の追加（VCPS^{*1}およびMG-R(SVR) for EMPR^{*2}の2方式）等を行った。

また、1セグメントサービス（受信機）に係わる規定については、放送ブックマークのサービス名称として「テレビリンク」の追記、放送ブックマークの運用ガイドラインの追記、横スクロールとアニメーションGIFの重ね合わせ等の制約、BMLバージョンのバージョンアップに関する受信機対応などについての明確化・追記を行った。

*1 Video Content Protection System：

DVD+RW、DVD+R、DVD+R(2層)に用いられるコンテンツ保護方式

*2 MagicGate Type-R for Secure Video Recording (MG-R(SVR)) for EMPR：

「USBをインタフェースとし、CPUや不揮発性メモリ等を搭載したアクティブ・リムーバブルデバイス」に用いられるコンテンツ保護方式

1.2 BS／広帯域CSデジタル放送運用規定技術資料（ARIB TR-B15 3.4版）

受信機機能仕様において、IPインタフェース仕様を追加するとともに、DTCP-IPを用いた受信機を設計するための具体的な運用仕様を規定した。

送出運用規定では、委託放送事業者のサービス変更等に伴う各種IDの修正を行った。

コンテンツ保護については、

(1)DTCP-IP関連の仕様を追加してIPインタフェースの場合の保護規定を明確化し、

また、

(2)受信機へ搭載可能なリムーバブル記録媒体へのコンテンツ保護方式を2種追加した。

1.3 衛星デジタル音声放送運用規定技術資料（ARIB TR-B26 1.1版）

「第二編 受信機機能仕様書」、「第三編 データ放送運用規定」、「第四編 PSI/SI運用規定」及び「第七編 送出運用規定」に、H.264|MPEG-4 AVCの運用を追加した。

また、第七編では、SBRの運用の確定及び識別子の値の確定を行い、TBDを削除した。

CEATEC JAPAN 2005が開催される

去る10月4日（火）から8日（土）まで、CEATEC JAPAN 2005が幕張メッセで開催されました。展示ブースは全体で788社・団体が2,775小間を出展し、来場者数は昨年より上回り20万人余りの来場がありました。

当会の展示ブースでは、ARIBの活動紹介として無線LANによるARIBホームページの紹介、昨年に引き続き地上デジタルテレビジョン放送のためのアナログ周波数変更対策関連の紹介展示を始めとして、通信・放送分野の主な研究開発状況のパネルでの紹介、関連資料の配布の他、アンケート調査を実施しました。

アンケート調査票には昨年と比しほぼ倍に当たる1600人の方の回答をいただきまして大変有難うございました。アンケート調査の集計結果は後日ARIB機関誌（No.47平成18年1月発行）に掲載の予定です。



ARIB展示ブースの賑わい

編集後記

10月に入って秋らしくなってきましたが、週末になると雨の日が多く外に出る機会が少ないのが残念な今日この頃です。

ところで、私が事務所で使用しているパソコンのディスプレイは20インチと大きく仕事も大変やりやすくなりましたが、パソコンといえば研究員の必需品で、皆さん毎日ディスプレイを眺みつけるように見えています。

われわれの小さい頃は、よく親に「テレビに近づいて見てはイケマセン」とよく言われたものですが、最近の若者は小さい頃から携帯TEL、パソコンなどのディスプレイを至近距離で見っていますが、この忠告は時代と共になくなったのでしょうか？

近眼が多くなるわけです。ちなみに私の家族は全員近視です。

私の願望ですが、せっかくARIBは14階と高所にあるので目を休めるのには東京タワーでも、たまに眺めたいのですが、残念ながら窓際にお座りの方は、光が差し込んで画面が見づらいためか常にブラインドが下りています。目の休養が取れそうに無いのが残念です。